

成果の説明書

(氏名)石井清輝	(学部)地域政策学部
<p>1 重要事項</p> <p>①台湾において進めてきた調査研究の成果を、「植民地時代の遺構をめぐる価値の生成と『日本』の位相—台湾における日本式木造家屋群の保存活動を事例として」(所澤潤・林初梅編『台湾のなかの日本記憶—戦後の「再会」による新たなイメージの構築』三元社、所収)、として発表した。なお本論文は、筆者が代表者である JSPS 科研費(若手研究 B)の成果報告でもある。</p> <p>②関東都市学会春季大会シンポジウムにおいて「素人参加型の市は何を生み出しうるのか」と題した報告を行い、その内容を同学会誌に発表した(『関東都市学会年報』第 16 号)。</p> <p>③東京都台東区の谷中地区、文京区の根津、千駄木地区において、所属ゼミ学生と観光客の動向やまちづくりに関する調査実習を実施した。</p> <p>④群馬県桐生市の重要伝統的建造物群保存地区を中心に、所属ゼミ学生と商店主、NPO 関係者、市職員などに対するインタビュー調査を実施し、あわせて地区商店街と共同で地域振興プロジェクトを実施した(関連新聞記事: 桐生タイムス: 2015 年 11 月 3 日)。</p> <p>⑤上記③、④の学生による調査活動も踏まえて、ゼミナール所属学生の報告書の原稿作成の指導を進めた。</p>	
<p>2 その他の事項</p>	
<p>3 次年度以降の計画・抱負</p> <p>①台湾に関しては、日本統治期の地域社会の実態に関する生活史研究を進めていく予定である。</p> <p>②群馬県桐生市では、歴史的環境の保存・活用に関する研究を継続し、さらに祭礼調査を実施する予定である。</p>	